り、家來共、堂腰掛までは自由に出入する樣にして、扨今一重内に塀をかけ、中挑をかまへ、中挑の内に又腰掛を付、初入は主中挑迄むかひに出ル、扨懐石濟中立の時、堂腰掛までは不行に、中挑の内に付たる腰掛に居て案内の鉦を待、○中略

腰掛に置べき諸具之事

看板　版、但喚鐘にても柝にても、　圓座、但客の數次第并上座下座、　硯文庫　當日客名付　烟草盆

案内のなり物を初め、腰掛の諸具右のごとし、圓座のとぢめ壁付にすべし、腰掛二ッあらば、上座下座分て置べし、硯箱の内、筆二本、小刀、墨、此分入べし、書院方には墨さし抔も入るなれども、腰掛の硯箱には無用也、筆一本はおろし墨付たるを、ぼうしなしに入れ、一本は帽子を掛て入る也、帽子の寸抔も有、秘事口傳、文庫の内、奉書美濃紙一帖ヅヽ入べし、口傳有、當日客の名付、賞客と思ふ客を壹番に書付べき事勿論也、烟草盆の事、休の時代迄はまれ〳〵に用ひし故、烟草盆の一具抔なかりし也、漸八九十年來、世なべて用る事になれり、利休たばこ盆抔云あり、是休の名をかりたるなるべし、

〔茶譜〕一堂葺ト云ハ、外腰掛ノ脇ニ造ル、此屋根ヲ瓦葺ニスル、之ハ數奇屋ト同ヤウニ見間敷タメ、又路地ノ體深山ノ物靜成ヲ見立テ造ユヘ、幸ニ寺ナドモ有心ヲ含テ、則瓦葺ニハ造シ也、第一ハ此所客人ノ裝束改所、又相客ヲ待合所ナリ、寒氣ノ砌、老人ハ腰掛ニ相客ヲ待居モ難儀スベキタメ旁造之、則堂葺ニ添テ腰掛有之ヲ外腰掛ト云、此近所ニ雪隱有、夫ヲ外雪隱ト云、中クヽリノ内ニモ腰掛アリ、之ヲ内腰掛ト云、此近所ニモ雪隱有、夫ヲ内雪隱ト云、○中略

一古田織部流、外腰掛ニ續テ堂葺有、六疊敷又八疊敷モ可有之、眞中程ノ大道ノ方ヘ突出シテ出格子有之、釣格子ニシテ竹ヲ打ナリ、竪柱五本ニ横ニ通入テ、格子ノ内ニ腰板ヲ打、然ドモ其中路